

# 国際 ICT 利用研究全国大会講演論文サンプル テンプレート

国際 利用<sup>†</sup> 上山 研究<sup>†</sup> 山下 学会<sup>‡</sup>

<sup>†</sup>市川大学 商経学部 <sup>‡</sup>品川大学 環境学部

<sup>†</sup>miyata@ichikawa.ac.jp <sup>†</sup>ueyama@ichikawa.ac.jp <sup>‡</sup>yamashita@konodai.ac.jp

キーワード 全国大会, 講演論文, IARS, L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレート

## 1 はじめに

このファイルは IARS 全国大会学会講演論文サンプル L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 用サンプルです。

## 2 論文執筆要領

基本的な L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X での書き方については、多くの書籍が出版されていますので、それらを参照して下さい。

### 2.1 用紙

口頭発表の原稿は A4 で 4 頁以内、ポスター発表の原稿は A4 で 2 頁以内として下さい。

### 2.2 タイトルなど

先頭ページの上部には、タイトル、著者、所属、e-mail、キーワードの順に各項目を記述して下さい。

#### 2.2.1 タイトル

`\title{JPCATS 全国大会講演論文 …}`のように、`{ }`内にタイトルを記述して下さい。

#### 2.2.2 著者・所属・e-mail

著者、所属、e-mail については、次のように`{ }`内に記述して下さい。

著者

`\author{国際 利用† …}`

所属

`\affiliation{†市川大学 商経学部 …}`

### e-mail

`\email{†miyata@ichikawa.ac.jp …}`

#### 2.2.3 キーワード

キーワードは、次のように記述して下さい。

`\keyword{全国大会, 講演論文, JPCATS, …}`

### 2.3 見出し

節、項などの見出しは、階層順に

`\section`  
`\subsection`  
`\subsubsection`  
`\paragraph`  
`\subparagraph`

を用いて記述して下さい。

### 2.4 図表

図表は、本文中に埋め込んで下さい。図の下、および表の上には、図表番号と図表タイトルを記載して下さい。

年度	開催日	会場
2009	12月12日	慶應義塾大学
2010	11月28日	跡見学園女子大学
2011	11月27日	大東文化大学

表 1: 全国大会の変遷

### 2.5 その他

- 本テンプレートは、上端及び下端余白 30mm, 左右余白 18mm, 2段組み (25 字× 2段, 間隔 1.5 字),

頁番号なしとしています。

- 原稿は日本語または英語で記述して下さい。
- 一般的でない用語については、本文もしくは脚注にて説明を加えて下さい。
- PDF 作成時には、編集不可などのセキュリティ設定を施さず、また画像の解像度を必要以上に落とさないようにして下さい。

### 3 講演発表について

#### 3.1 口頭発表

##### 3.1.1 講演時間

現在、講演時間は質疑応答を含めて12分間を予定しています。多数の発表が予想されますので、時間厳守をお願いします。

##### 3.1.2 発表会場の設備

- プロジェクタ、パソコン（Windows7）は用意しています。
- USB メモリでご準備下さい

#### 3.2 ポスター発表

##### 3.2.1 ポスターサイズ

ポスターはA2もしくはA3で用意して下さい。掲示場所は大会運営側で用意いたします。

##### 3.2.2 講演時間

大会当日の昼休みをポスターセッションのコアタイムに設定する予定です。この時間帯には必ず所定場所でポスターを掲示し、著者のうち少なくとも1人がポスター前にて待機して下さい。

##### 3.2.3 発表会場の設備

電源コンセントは準備できますが、LAN環境についてはサポートできません。

### 3.3 表彰

優れた講演発表に対して（最）優秀研究発表賞等を設けています。

## 4 おわりに

参考文献の書式は、科学技術情報流通技術基準（参考文献の書き方）

[http://sist-jst.jp/handbook/sist02\\_2007/main.htm](http://sist-jst.jp/handbook/sist02_2007/main.htm)

もしくは、参考文献の役割と書き方（科学技術情報流通技術基準（SIST）の活用）

[http://sist-jst.jp/pdf/SIST\\_booklet2011.pdf](http://sist-jst.jp/pdf/SIST_booklet2011.pdf) に準じて下さい。

## 参考文献

- [1] （例えば）奥村晴彦.  $\text{\LaTeX}2\epsilon$  美文書作成入門. 改訂第5版, 技術評論社, 2010.8.5
- [2] 著者名. 論文名. 誌名. 出版年, 巻数, 号数, はじめのページ-おわりのページ, ISSN. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手日付).
- [3] 西潔, 石原和弘. 火山地域における震源計算についての提案. 火山. 2003, vol. 48, no. 5, p. 407-413
- [4] 著者名. 書名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ数, (シリーズ名, シリーズ番号), ISBN. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手日付).
- [5] 井尻憲一. 宇宙の生物学. 朝倉書店, 2001, 148p., (シリーズ応用動物科学/バイオサイエンス, 5).
- [6] 内閣府編. 交通安全白書. 平成17年版, 2005. <http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/index-t.html>, (参照 2006-03-07).
- [7] 著者名. “ウェブページの題名”. ウェブサイトの名称. 更新日付. (言語の表示), (媒体表示), 入手先, (入手日付).
- [8] 坂本和夫編. “パルスレーザーアブレーションにおけるドロップレットフリー薄膜の作製技術”. J-STORE. 2005-11-01. [http://jstore.jst.go.jp/cgi-bin/techeye/detail.cgi?techeye\\_id=32](http://jstore.jst.go.jp/cgi-bin/techeye/detail.cgi?techeye_id=32), (参照 2006-06-23).